

なみまるくん

7
2022

No.405



「うみ・なかまコミュニケーション」



特集

第60回 北海道漁業協同組合長会議

第73回 ぎょれん通常総会

マチコさんの あさかな コラム

札幌で活躍する2人の管理栄養士の方に、旬の魚をテーマとしたコラムを交互にご寄稿頂きます。

「今年の夏は 道産あなごに注目~!」

ようやく夏本番！今年はいろいろなイベントが戻ってきているので、なんだかワクワクしますよね。私も2年ぶりにリアルでの講演会が始まっています。コロナ禍前までは全道各地を回ることも多く、その土地の特産品を知ることが楽しみのひとつでした。今後また道内の市町村を訪ね、さまざまな食品に触れられたらと思っています。

昨年の今頃でしょうか。イタリア料理店で恥ずかしながら初めて北海道産のあなごを食べました。函館産のあなごを使ったリゾットだったので、身がふっくらしていて臭みがなく、さっぱりといただけたのを鮮明に覚えています。なにより北海道であなごが獲れることにいたく感激しました。

非常勤講師を務める学校でこの話をしたところ社会人の学生は知っている人が多かったようです。私、先生なのに面目ない

かぎり……。 (笑) 今年もって道産あなごを食べる機会を増やしたいと思っています。津軽海峡周辺から噴火湾、室蘭あたりで獲れるそうなので、やはりここはあなごを求めて道南旅行でしようか…。

あなごは非常に栄養価が高い魚類です。良質なたんぱく質や、血流を改善して生活習慣病の予防に役立つオメガ3系脂肪酸の「DHA」や「EPA」も豊富。また皮膚や粘膜を丈夫にし、目の健康を守る「ビタミンA」や高血圧を予防する「カリウム」、丈夫な骨をつくったり、神経の興奮を抑える「カルシウム」などが含まれています。

夏と言えはあなごが定番ですが、北海道産のあなごを食べることで地産地消につながり、フードマイルージも低くなるのでサステナブルです。あなごばかりではなく、道産の魚介類をもっともとと食卓に登場させる頻度

を上げていくことがおいしく、さらに地球にもやさしい食生活になると考えています。



うえまき
上坂マチコ
お食事のカウンセリングサロン
colan代表/管理栄養士/料理家/
コラムニスト
テレビ出演、新聞・雑誌などでコラム連載や栄養監修、レシピ・スタイリングの提供などを行う。講演会や食事指導、料理講師、短大・専門学校の非常勤講師など活動は多岐。ぎょれんと共に昆布や鮭の情報を広く発信。

- 01 マチコさんのおさかなコラム
「今年の夏は道産あなごに注目~!」
- 02 特集1
第60回 北海道漁業協同組合長会議
- 06 特集2
第73回 ぎょれん通常総会
- 10 特集3
道内リサイクル大手・鈴木商会の「苫小牧プラ・ファクトリー」が竣工
- 11 頭すっきり!! ブレイクタイム
- 12 大漁祈願!
浜のほっとニュース
- 13 みなさんのお便りでつくるページ
なみまる おたより箱



6月1日(水)、当別町にある道民の森 神居尻地区内「水源の森」で令和4年度「お魚殖やす植樹運動」の植樹行事を開催しました。昨年・一昨年と新型コロナウイルス感染症の急拡大ならびに非常事態宣言の発令を受け、行事としては中止となり、事務局(ぎょれん環境部)で植樹していましたが、今年は十分な感染対策を実施し、無事に開催することができました。

当日は雨が降る悪天候のなか、北海道漁協女性部連絡協議会や地区漁協組合長会の代表、在札系統団体や道・自治体の職員ら約60名が参加し、将来の自然環境と漁業を守ることを願いながらミズナラ、ハルニレなど500本の苗木を植えました。

表紙の写真
石狩管内当別町 道民の森です

第60回北海道漁業協同組合長会議



4つの議案が原案通り承認、決議された、第60回全道漁協組合長会議



ぎょれん 川崎会長



議長を務めたいぶり噴火湾漁協 岩田組合長と副議長を務めたえさん漁協 上見組合長

6月16日(木)、札幌市の第二水産ビル大会議室で「第60回北海道漁業協同組合長会議」が開催されました。会議では5月12日(木)の「北海道漁業協同組合長会議実行委員会」で審議された4つの決議案が上程され原案通り決議されました。

このことは、決議内容についてお伝えします。

第60回決議(令和4年度)

1. 本道漁業においては、コロナ禍の先行きが不透明な中であって、海洋環境の変動に伴う基幹魚種である秋鮭、するめいか、さんま、昆布などの漁獲量の低迷が大きな問題となっているほか、漁業経営や漁場環境などにおいても課題が山積している。
2. こうした環境下、昨年、国は福島第一原発・アルプス処理水の処分方法として、海洋放出する方針を決定したこと、道産水産物に対する風評被害の懸念が増しているほか、道東太平洋沿岸域において、過去類例のない大規模な赤潮が発生し、うに、つぶなどの水産資源が大きな打撃を受けるなどの新たな問題が生じたところ。
3. また、昨今、ロシア、ウクライナ間の紛争が国際的な社会問題となる中で、近隣諸国による我が国の排他的経済水域(EEZ)へ向けたミサイル発射が頻発しているほか、本道漁船に対する臨検や拿捕があらためて問題視

されるなど、漁場の安全確保が重要となっている。

4. ついては、このような本道漁業を取り巻く諸課題の解決に向けて、重点的な施策展開と国及び道の予算の拡充強化が不可欠であることから、北海道漁業協同組合長会議において、以下の4項目について決議を行い、全道漁協系統組織の総力を挙げて、実現を目指すこととした。

決議第1号 漁業経営の安定・強化に向けた取組

- (1) 新型コロナウイルス感染症に係る緊急対策の継続と拡充強化
- (2) 今後のコロナ禍の収束後を見据え、令和2年度以降に措置された漁業経営の安定に資する持続化給付金、特定水産物供給平準化事業や金融対策等の各種政策の継続と拡充を図ること
- (2) 漁業収入安定対策等の拡充強化
- (1) 漁獲・特定養殖共済について、補償水準(共済限度額)の引き上げ等の制度改善、掛金追加補助の維持並びに補償の対象外となっている漁業に係る制度の検討・整備を図ること
- (2) 漁業施設共済について、定置網に係る制度の抜本的な見直しを行うこと
- (3) 積立ぶらすについて、無給餌養殖等における加入要件の見直し、強度資源管理タイプにおける補償水準(払戻判定金額)の引き上げ及び特例措置を継続実施するとともに、TAC対象魚種の拡大やIQ導入等による資源管理強化に対応

決議第2号 漁場の安全確保と水産資源の適正利用の枠組構築

- (1) 組織的密漁の撲滅に向けた密漁防止対策の推進
- (1) 密漁に対する取締体制の強化とともに罰則の厳格適用及び更なる効果的な罰則の引き上げを図ること
- (2) 夜間における遊泳・潜水について、届出制とする
- (2) 外国漁船による過剰漁獲抑止に向けた取組
- (1) 国内における漁獲規制を主体とした資源管理措置に先立ち、外国漁船によるするめいか・さんま等の回遊魚への過剰漁獲に対して、取締の強化や国際的資源管理の枠組の構築等、実効性の伴った対策を講じること
- (3) 国際情勢の変化に対応した我が国領海内における漁場の安全操業の確保
- (1) 本道海域においては、我が国領海内や公海にあっても、隣国による臨検や拿捕・銃撃される懸念があることから、領海法における特定海域の見直しや外交的取組を強化することにより、漁場の確保と安全操業が担保される体制を構築すること
- (2) 日本近海における近隣諸国によるミサイル発射や軍事演習により、洋上の漁撈作業が危険にさらされていることから、国境監視体制の強化とともに全道を完全に網羅した無線局・漁船間の迅速な情報受信体制の更なる強化等を図ること
- (4) 漁場周辺海域における遊漁に係るルールの策定
- (1) 遊漁船・プレジャーボートによる海上事故や漁具被害等の発生防止と水産資源の保護・適正利用並びに漁撈作業や漁船の航行時の安全確保を図るために、沖合・沿岸域における鮭・鱒釣りの全面禁止措置を含めた遊漁に係るルールを早

- ④ 水揚げの減少により収支が悪化した漁協の経営の維持・安定化のために、共済制度に類する経営支援制度を創設すること
- (3) 漁業経営におけるコスト削減対策の拡充強化
- (1) 漁業経営セーフティネット構築事業について、国の負担割合の更なる引き上げを図るとともに、国の負担割合の際には現行方式から一定価格を上回った場合の上昇分を補てんする方式に変更すること
- (2) 漁業用ガソリンの免税措置の導入と漁業用燃料に係る免税・還付措置の恒久化を図ること
- (4) 漁業経営における計画的設備投資に向けた取組
- (1) 漁船・漁具等の導入支援を行う「水産業成長産業化沿岸地域創出事業」(以下、新リース事業)への十分な予算の確保を図るとともに、漁船リース事業・機器等導入事業の新リース事業への統合を図り、円滑な事業活用のために基金事業化すること
- (5) 道産水産物の加工流通対策の拡充強化
- (1) 流通滞留魚種の目詰まり解消のため、特定水産物供給平準化事業の継続と対象魚種の拡大並びに大規模な予算措置を行うとともに、切れ目ない事業活用を可能とするために基金事業化を図ること
- (2) 新型コロナウイルス感染症の影響による水産物需要の減退を踏まえ、魚価維持・流通安定・輸出事業拡大等の支援策の拡充強化を図るとともに、道産水産物の販売力強化や魚食普及活動への支援を拡充強化すること
- (3) 北海道新幹線札幌延伸に伴い、JR北海道から切り離される並行在来線が廃線となり、鉄道による貨物輸送が行われなくなった場合、道内一

- 次産品の流通に多大な影響が生じることから、将来に亘り、国の責任において鉄道貨物輸送の機能を維持すること
- (6) 漁業者・漁協に対する金融支援措置の拡充強化
- (1) 漁業近代化資金について、船価に応じた貸付限度額の引き上げ、実耐用年数に見合った償還年数の延長、沿岸漁業者の経営形態に則した漁船トン数制限の見直し等の措置を講じること
- (2) 不漁や自然災害の発生、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が統括しており、経営改善が困難となっている漁業者に対して、漁業近代化資金の法定償還期限を超える期限延長及び金融円滑化に資する漁業信用基金協会保証付き長期運転資金の創設について措置を講じること
- (7) 本道水産業の担い手・外国人材等の確保対策の強化
- (1) 新規漁業就業者や漁業後継者の生活基盤の安定化のため、着業支援給付金による支援や漁業技術の向上などの育成支援体制の拡充を図ること
- (2) 外国人技能実習制度について、複合的漁業経営を営む沿岸漁業の特性を十分考慮した上で、漁船漁業と養殖漁業を統合した「沿岸漁業」という移行対象職種を新設するとともに、受入人数・対象漁業・魚種の拡大、期間受入や兼業漁船(複数魚種・複数作業)、複数地区での実習を可能とする等、活用しやすい制度へ改善するほか、特定技能資格制度における派遣労働の要件緩和と弾力的な運用を図ること
- (3) 昆布漁業等における陸上共同作業施設の設置や漁撈作業の負担軽減のための省エネルギー化・デジタル化・省力化に資する設備・機器の開発を進めること

- ② 遊漁者による釣果物やジミの投棄等に対する罰則の強化やガイドラインの策定などの環境保全対策を講じるとともに、漁業者・地元住民とのトラブルを防止するための枠組を構築すること
- ③ 遊漁による海難事故にいたり、救助活動に対応する漁業者の身分保証と燃油代・人件費等の負担を軽減するための公的支援制度を創設するとともに、遊漁者の責務について明確にすること

**決議第3号
漁業実態に即した水産資源の持続的利用と増大対策**

- (1) 新たな資源管理における魚種・漁法の特性を踏まえた管理方法の検討
 - ① 改正漁業法において基本とされるMSYに基づくとAC管理について、精度の高い資源評価と混獲等の漁法特性を十二分に踏まえ、漁業者の理解・納得を得た上で取り進めること
 - ② 主要魚種については、ステークホルダー会合等に先立ち、MSYに基づくTAC管理が妥当かどうかの検証を漁業関係者と協議すること
- (2) 重要魚種に対する漁業実態に即した資源管理の推進
 - ① ほっけ（北海道北系群）の資源管理については、魚種の生態の特性上、資源評価による将来予測が困難でありTAC管理には馴染まないことから、道、道総研の指導のもと、着実に資源回復の効果をあげている自主的資源管理を発展させた「北海道スタイル」を基本としたものとする
 - ② すけとうだらについては、資源の変動要因となる海洋環境の変動を踏まえた精度の高い資源評価による漁獲枠の設定を実現するとともに、T

- 実際に海洋放出が行われた場合に生じる風評被害に対する対策について万全を期すこと
- ④ 国の責務として、漁業継続に向けて必要となるあらゆる対応策を適宜実施すること
- (2) 赤潮による漁業被害に係る実効ある対策
 - ① 赤潮の発生原因とそのメカニズム、水産動植物等への影響を解明すること
 - ② 最先端技術の活用や海洋環境情報のデジタル化などを通じ、迅速、広域のかつ継続的な赤潮のモニタリング体制を構築するとともに、赤潮予見システムを開発すること
 - ③ 先般措置された北海道赤潮対策緊急支援事業において、要件の緩和や助成対象の拡大等、漁業現場の実態を反映させた弾力的な運用を行うこと
 - ④ 漁業収入安定対策事業の対象漁業について、資源が回復するまでの間、補償水準の維持、下落防止対策を講じること
 - ⑤ 北海道赤潮対策緊急支援事業の活用が困難である漁業者や漁業収入安定対策事業の補償対象とならない漁業者に対する支援を行うとともに、将来に備え対象魚種の拡大などの加入要件の緩和を行うこと
 - ⑥ ういの資源が壊滅的な被害を被った地域もあることから、資源回復と操業再開を早期に実現するため、増養殖事業に係る施設整備を含め、種苗生産に対する中長期的な支援を行うこと
 - ⑦ 赤潮により大きな影響が生じたつぶ等の資源について、種苗生産技術の開発やモニタリング体制の構築を行うこと
 - ⑧ 赤潮を起因とした漁業被害に伴う水揚げの減少により、経営悪化が著しい漁業者に対する金融支援を講じること
 - ⑨ 赤潮被害による漁獲の減少に伴う漁協の事業手数料の収入減に対する経営支援策を講じること

AC数量を固定した場合であっても、未利用分の漁獲枠を次年度へ相応の繰越が出来るようにするなど、漁業者の意見を踏まえた弾力的な運用を行うこと

- ③ まだらについては、ロシアとの跨り資源であり資源評価の精度が十分ではなく、資源評価精度の低いことによるリスクを漁獲抑制に負わせることがないよう、慎重に検討した上で現場の実態を十分反映するとともに、漁業者の理解が得られるよう混獲対策をすること
- ④ ぶりについては、出世魚として、もじやこと呼ばれる幼魚の段階から、ふくらぎ、いなだ、ぶりそれぞれ成長過程で漁獲対象となっていくことから、一部の地区に負担がかからないようにすること

また、漁獲量について、年度毎の変動が大きく予測がつかないことから、沿岸漁業の特性に配慮した柔軟な制度運用をすること

- ⑤ くるまぐろのTAC管理において、適切な本道漁獲枠を確保するとともに、漁獲制限により逼迫した漁業経営を強いられる漁業者に対する支援を行うこと
- また、くるまぐろ資源の増加により、いか釣り漁業における漁具被害が深刻化していることから、くるまぐろによる漁業被害への補償等の支援を行うこと

- (3) 増養殖事業・栽培漁業による資源増大対策の推進
 - ① 水産資源の回復・増大を図るため、増養殖事業・栽培漁業における種苗生産等の技術開発・育苗や施設整備に必要となる予算を最大限に確保することともに、継続的かつ効果的な支援を行うこと
 - ② 来遊数量が減少している秋鮭について、種苗生

- (3) スマート水産業による沿岸漁業の海洋環境測定デジタル化の推進
 - ① 水産業のスマート化推進支援事業などの拡充により、漁業者・漁協などによる効率的な海洋環境の測定を可能とするとともに、測定データを共有し操業に役立てるためのシステムを開発すること
 - (4) 水産多面的機能発揮対策事業の拡充強化
 - ① 水産多面的機能発揮対策事業（藻場干潟、水域監視等）について、事業の拡充並びに予算の復活・恒久化を図ること
 - (5) 自然災害・各種工事による漁業施設被害の軽減
 - ① 流木捕捉工の設置等、流木の河川や海洋への流出未然防止対策の更なる拡充強化を図るとともに迅速な撤去処理体制を確立すること
 - ② 流木を始めとする海岸への漂着物撤去のために、海岸漂着物処理推進法などの道域への十分な予算の確保やかつてのニューディール基金に類する制度を創設すること
 - ③ 台風や低気圧被害による定置網・養殖施設、荷捌き所、倉庫等の漁業施設への被害や海岸護岸崩落に対し、補修や強化整備の早期実施や迅速な支援、海岸浸食保全措置を講じること
 - ④ 河川・湖沼改修、農地崩落、新幹線工事、道路・トンネル工事、農業・農業系廃棄物による漁場環境への影響を緩和・回避するための十分な対策を講じること

- (6) 有害生物漁業被害対策の拡充強化
 - ① 有害生物漁業被害防止総合対策事業において、サメ、シャチ、ラッコ等に対して事業対象範囲を拡大するとともに十分な予算確保を図ること
 - ② トド・アザラシ・オットセイ等海獣類による漁業被害対策として、「専業ハンターの確保」「駆除事業の拡充」等による漁業被害防止体制の強

産体制の維持・安定を図るため、資源の減少要因の解析、親魚確保、孵化放流技術の研究強化等、実効性のある資源回復措置を早急に講じることとともに、資源が回復するまでの間、国において孵化放流事業や施設整備に係る支援を行うこと

- ③ 昆布、さんま、いかなど資源が低位にある魚種や大量斃死の発生した養殖ほたてについて、資源減少等の原因究明に努めるとともに、不漁問題対策として海域の特性に合った実効ある資源増大対策を講じること
- ④ 海域状況に適合する放流事業等、ほたて、かき、あさり、うに、つぶなど、各浜において自ら取り組んでいる栽培漁業について、効果的な資源増大対策の推進と支援措置を拡充すること

- ⑤ つぶなどの栽培漁業の確立が資源増大に寄与すると期待される漁業種類について、種苗生産技術の研究を進め、漁業生産に反映すべく実用化を図るとともに、鮭、昆布等における環境変動に適合した種苗の開発に向けて育種研究の推進を図ること
- ⑥ 漁業者・漁協による魚介類の陸上養殖の研究や取組について積極的な支援を行うこと

決議第4号

漁場環境の保全と継承に向けた対策

- (1) 福島第一原発事故・アルプス処理水の処分に係る対策
 - ① 漁業者・国民の理解が得られないなかで、アルプス処理水の海洋放出は行わないこと
 - ② アルプス処理水の保管を継続するとともに海洋放出以外の新たな保管・処理方法などの検討を続けること
 - ③ 海洋放出の方針決定による風評被害と、将来、

化、「海獣類の生態や被害防止のための調査研究」の拡充強化並びに、海獣類により漁獲物や漁具などへの被害を受けたり、休漁を余儀なくされた漁業者に対する漁業被害補償制度を創設すること

- ③ ほたての斃死やザラボヤ被害の原因究明と対策の拡充・強化を図るとともに、ザラボヤ駆除処理に係る支援を図ること
- (7) 水産業における脱・抑プラスチック・ブルーカーボンに資する取組の推進
 - ① 河川海洋環境保全のため漁業者が実施するプラスチック製品の抑制、再利用、再資源化等の取組を推進するため、プラスチック漂着物の堆積量調査を実施するとともに廃網・FRPの廃船を効率よく低コストで処理が可能となる体制の構築を支援すること
 - ② 昆布などの海藻類によるブルーカーボンに資する効果について、科学的知見を明らかにするとともに、漁業者が実施するブルーカーボン効果に着目した海藻類などの資源増大に向けた取組を支援すること

**令和4年度
北海道漁協系統運動功労者表彰**

〈代表理事組合長としての表彰〉

- 亀田 元教さん 代表理事組合長
- 広尾漁業協同組合
- 神山 久典さん 代表理事組合長
- 大樹漁業協同組合
- 西野 憲一さん 代表理事組合長
- 増毛漁業協同組合
- 〈常勤役員としての表彰〉
- 中村 正俊さん 専務理事
- 南かやべ漁業協同組合

第73回ぎよれん通常総会



開会の挨拶をする川崎会長



川崎会長 挨拶

令和3年度の事業概要

本道漁業の生産量は、百十八万トンと昨年を上回ったものの、秋鮭や昆布、さんまといった本道を代表する魚種の資源水準は依然低位にあります。

その一方、漁業生産額については、ほたてをはじめコロナ禍で下落した魚価が回復してきたことで昨年を上回ることができましたが、太平洋沿岸では大規模な赤潮が発生し、秋鮭やうに、つぶ等に甚大な漁業被害をもたらすなど先行き不透明感が払拭できない状況が続いています。

国内においては、コロナ禍により社会経済活

令和3年度の取扱金額は2851億円
令和4年度は3ヶ年計画の最終年度として、各種対策に総力を挙げて取り組む

ぎよれん総会は、川崎会長の挨拶（次頁に掲載）のち、船泊漁協の大石組合長が議長に選任され、議事が進行しました。「令和3年度の決算」「令和4年度の事業計画」「新役員を選任」など、8つの議案が審議され、いずれも原案通り承認されました。また、新たに就任した阿部会長と今回の総会をもって退任された川崎会長、本田常務、本



議長を務めた船泊漁協 大石組合長

動の制限が発令され、外出自粛や飲食店の営業時間短縮が続くなか、本会では巣ごもり需要など、変化するマーケットに照準を合わせた販促活動を展開してきました。

輸出については、回復の兆しは見えてきたものの、検疫の強化や出入国制限による流通の停滞など未だ水産物への影響が続いています。

一方、漁政面におきましては、持続可能な「北海道スタイルの漁業」確立を目指し、本道の漁業実態に即した「適切な資源管理の実現」及び「資源増大対策の推進」等を重要課題と位置づけ、国や道へ要請活動を展開しました。

さらに、新型コロナウイルスのまん延に対しては、漁業者や漁協の経営支援、流通対策、外国人材の確保など各種対策を実現して参りました。

また、福島第一原発におけるアルプス処理水の処分方法について海洋放出に断固反対の立場であることを改めて申し入れています。

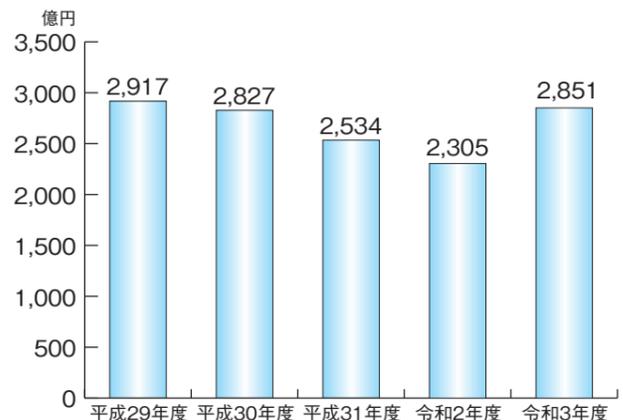
なお詳細は、先ほどの組合長会議の決議実行経過で報告した通りであります。

以上の結果、本会の総取扱高は二千八百五十億円、税引き前収支は七億八千三百万円と計画を上回ることができました。

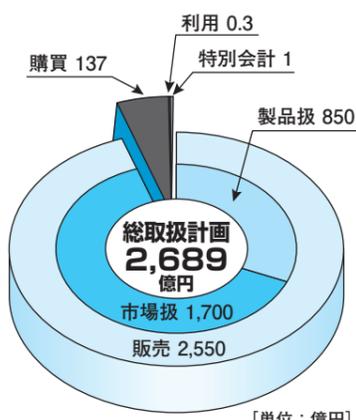
令和4年度の事業計画

次に事業計画の考え方について申し上げます。

総取扱高の推移



令和4年度事業別取扱計画



8つの議案が全て原案通り承認されました

本道漁業の生産量は依然として低水準から脱せず、地域経済にも深刻な影響を及ぼしています。

本年度は「夢と活力ある北海道漁業の再興」を目指し策定した、中期的事業推進方向の最終年度であり、組織を挙げて課題解決に挑戦していく決意です。

加えて、先ほどの全道組合長会議で決議した「社会・環境の変化に対応した持続可能な漁業・漁村の発展」に向け取り組んで参ります。

本会と致しましては、3ヶ年計画の節目の年として、各種対策に総力を挙げて取り組んで参る所存ですので、会員各位の特段のご理解とご支援をお願い申し上げます。

間常務より挨拶がありました（8、9頁に掲載）。

川崎会長から阿部会長へ

ぎよれん新体制がスタート

今回の総会をもって川崎会長が退任され、阿部組合長（福島吉岡漁協）が新会長として選任されました。

阿部新会長 就任挨拶（要旨）

ただいま開催されました理事会におきまして、会長に就任致しました。責任の重大さに身の引き締まる思いを致しております。今総会をもって退任される川崎会長には、長年にわたり、系統団体長として北海道漁業の発展にご尽力いただき、改めて感謝とお礼を申し上げます。誠にありがとうございます。今後は北海道漁協系統運動の推進にご指導を賜りますよう、心からお願いを申し上げます。本田常務、本間常務には長年にわたり、北海道漁業の発展にご尽力をいただきました。併せてお礼を申し上げます。

北海道の漁業は、海洋環境の変化に伴う水産資源の変動や生産者の減少と高齢化といった構造的問題に加え、自然災害の増加、加工・流通・輸送及び国内外の消費状況の様々な変化にさらされ課題が山積しておりますが、「浜のために・浜とともに」という組織理念のもと、「夢と活力ある北

退任する役員からの挨拶

今回の総会をもって退任する本田常務、本間常務からメッセージをいただきました。



本田常務退任挨拶
昭和53年から職員として35年間、平成25年から役員として9年間勤めさせていただきました。役員となつてからは昆布・購買事業を担当し浜の皆様には大変お世話になりました。毎年、毎年いろいろな課題難問がありましたが、一つ一つ対応してまいりました。それでも新しい課題は押し寄せてまいります。それらも後に携わる方々の英知で克服できるものと確信しております。今後皆様様の益々の活躍をお祈りし、退任の挨拶といたします。



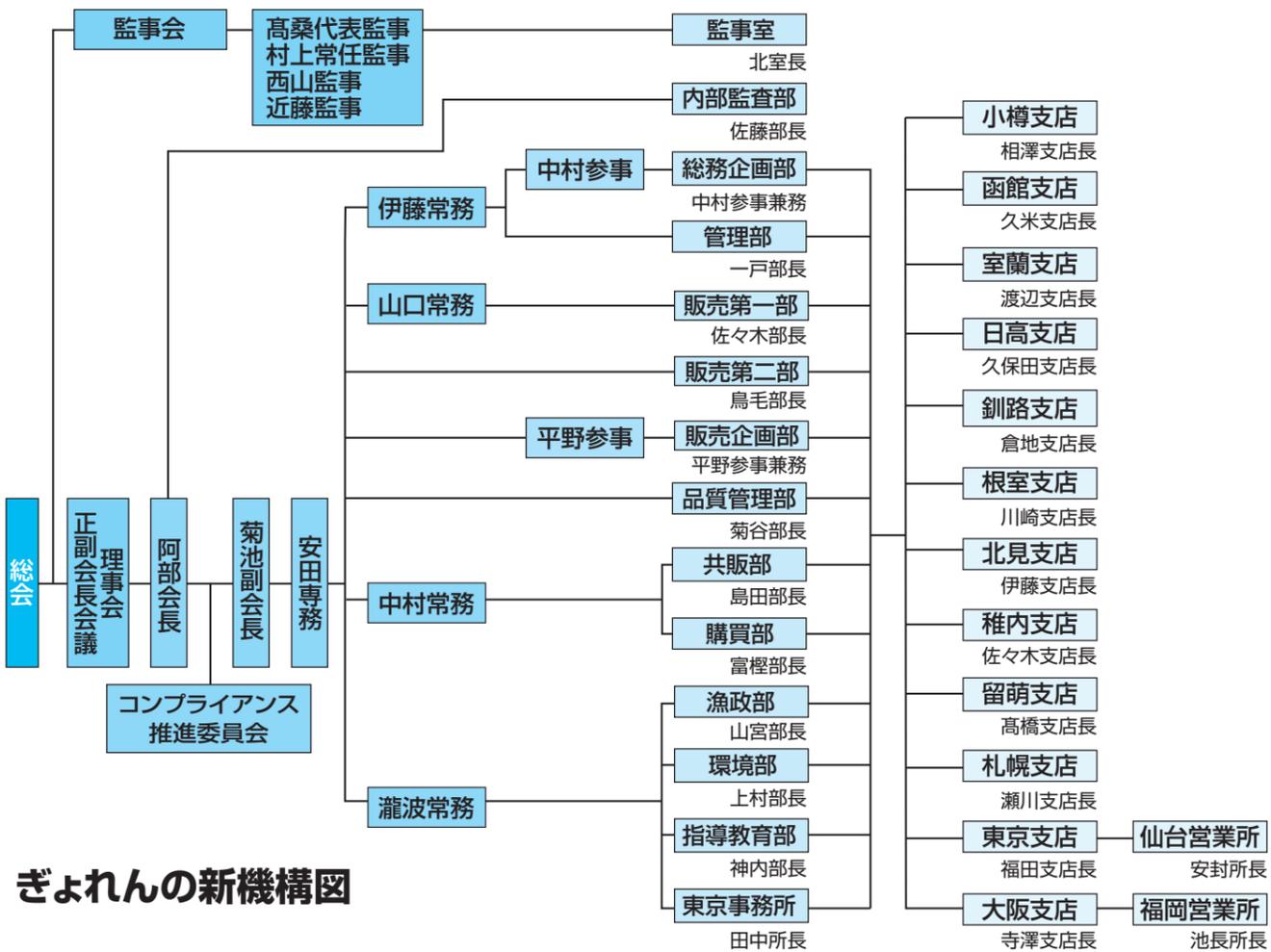
本間常務退任挨拶
昭和57年指導連へ入会后、平成16年漁連と統合し、通算で40年間、漁業協同組合運動に参加し、一貫して指導事業に携わることができました。これも偏に浜の皆様のおかげであり、深く感謝申し上げます。厳しい漁業環境が続きますが、海は限りない可能性を秘めていると信じていますので、これから系統一致団結して浜の協同の力を十二分に発揮され、北海道漁業が更なる発展を遂げますようお願いしております。永い間本当にお世話になりました。

北海道漁業の再興」を基本方針とし、指導経済連合会としての機能強化とともに、各種対策に取り組む所存でございます。多くのの方々によって築きあげられた北海道漁協系統運動の確固たる基盤をもとに、今後、川崎会長の跡を引き継ぎ、全力を投入して参る決意でありますので、引き続き、皆様には特段のご支援とご協力をお願い申し上げます。会長就任にあたってのご挨拶とさせていただきます。どうぞ宜しくお願ひ致します。

川崎会長 退任挨拶（要旨）

本日は、大石組合長の適切な議事さばきと、ご出席いただいた皆さま方の特段のご協力により、提出致しました議案全てをご承認いただきましたことに、心からお礼を申し上げます。ごさいま

本道漁業はご存じの通り、大変厳しい状況にございます。しかしながら、われわれ一次産業を生業にするものにとって、厳しさもあれば、夢もあります。改めて長年にわたり北海道の漁業をけん引してきた浜の皆さんに心からの敬意を表するとともに、今後、諸問題の解決をしながら、北



ぎよれんの新機構図

ぎよれんの新執行体制															
代表理事	代表理事	代表理事	代表理事	代表理事	代表理事	代表理事	代表理事	代表理事	代表理事	代表理事	代表理事	代表理事	代表理事	代表理事	代表理事
阿部 国雄	菊池 元宏	大坂 鉄夫	岩田 廣美	安田 昌樹	伊藤 貴彦	山口 重幸	中村 尚広	瀧波 憲二	池守 力	工藤 幸博	若山 唯敏	坂本 好則	山崎 貞夫	片川 隆市	沖野 平昭
代表理事副会長	代表理事副会長	代表理事副会長	代表理事副会長	代表理事副会長	代表理事副会長	代表理事副会長	代表理事副会長	代表理事副会長	代表理事副会長	代表理事副会長	代表理事副会長	代表理事副会長	代表理事副会長	代表理事副会長	代表理事副会長
阿部 国雄	菊池 元宏	大坂 鉄夫	岩田 廣美	安田 昌樹	伊藤 貴彦	山口 重幸	中村 尚広	瀧波 憲二	池守 力	工藤 幸博	若山 唯敏	坂本 好則	山崎 貞夫	片川 隆市	沖野 平昭
常任監事	常任監事	常任監事	常任監事	常任監事	常任監事	常任監事	常任監事	常任監事	常任監事	常任監事	常任監事	常任監事	常任監事	常任監事	常任監事
村上 和雄	村上 和雄	村上 和雄	村上 和雄	村上 和雄	村上 和雄	村上 和雄	村上 和雄	村上 和雄	村上 和雄	村上 和雄	村上 和雄	村上 和雄	村上 和雄	村上 和雄	村上 和雄
代表監事	代表監事	代表監事	代表監事	代表監事	代表監事	代表監事	代表監事	代表監事	代表監事	代表監事	代表監事	代表監事	代表監事	代表監事	代表監事
高桑 康文	高桑 康文	高桑 康文	高桑 康文	高桑 康文	高桑 康文	高桑 康文	高桑 康文	高桑 康文	高桑 康文	高桑 康文	高桑 康文	高桑 康文	高桑 康文	高桑 康文	高桑 康文
監事	監事	監事	監事	監事	監事	監事	監事	監事	監事	監事	監事	監事	監事	監事	監事
近藤 龍洋	近藤 龍洋	近藤 龍洋	近藤 龍洋	近藤 龍洋	近藤 龍洋	近藤 龍洋	近藤 龍洋	近藤 龍洋	近藤 龍洋	近藤 龍洋	近藤 龍洋	近藤 龍洋	近藤 龍洋	近藤 龍洋	近藤 龍洋



固く握手を交わす川崎会長と阿部新会長

北海道の漁業が日本にとって、あるいは世界にとって確たるものであることを、心からご祈念を申し上げます。私事ではありますが、この9年間、皆さま方には大変ご指導賜りました。お陰様で怠惰なく、こうして退任することができました。これもひとえに浜の皆さま方をはじめ、多くの友人、あるいはまた、ここにおいでになる皆さま方のご協力の賜物であり、心から感謝を申し上げます。そして、これからの北海道漁業が益々栄えますよう、心からご祈念を申し上げます。今後は厚岸のいち漁業者として、協同組合運動にしっかりと取り組んで参りたいと思っております。長い間大変お世話になりました、ありがとうございました。

シークワードクイズ
7月のテーマ
「夏の風物詩」

7月は「夏の風物詩」がテーマです。夏になるとなぜか思い出すものがありますよね。
図の中で、たて、よこ、ななめの一直線に下のリストのキーワードが読めるようになっています。
どこにあてはまるか探してください。すべて探し終わったら、どれにも使用しなかった文字をうまく並べかえてください。

リスト

- ウカイ(鶺鴒い)
- ソウメン(そうめん)
- ウチワ(団扇)
- ナツまつり(夏祭り)
- エダマメ(枝豆)
- ハナビ(花火)
- カトリセンコウ(蚊取り線香)
- ビアガーデン
- カヤ(蚊帳)
- プール
- スイカ(西瓜)
- ムカエビ(迎え火)
- センス(扇子)
- ユカタ(浴衣)

〈ヒント〉北海道内で体験できる場所は少ないと思います。

解き方

リストの言葉をマス目の中からタテ、ヨコ、ナナメの一直線に探していきます。文字は逆方向から読んでも、他の言葉と重複して読んでもOK。すべて見つけた後、使われなかった文字をうまく並べかえたと答え(魚の名前)になります。

例題

ア	コ	ン	ブ
キ	ア	サ	リ
ア	バ	ン	サ
ジ	コ	マ	イ

リスト

- アキアジ
- コマイ
- プリ
- サンマ
- コンプ
- アサリ

ア	コ	ン	ブ
キ	ア	サ	リ
ア	バ	ン	サ
ジ	コ	マ	イ

〈解答〉サバ

どれにも使用しなかった文字をうまく並べてください。

解答 □□□□□ となります。

くわしい応募方法は、13ページをご覧ください。抽選で5名様に図書カードをプレゼントします。

一	タ	ク	ラ	ト	ル	ド
シ	ー	ソ	ー	ー	ー	セ
シ	オ	カ	テ	ホ	レ	ン
リ	ー	ト	ナ	ノ	ス	
ゴ	ソ	ー	ト	ナ	モ	イ
シ	ケ	ヌ	シ	バ	カ	カ
ス	ヤ	カ	イ	ダ	イ	ン

6月号の解答と当選者
ジテンシヤ
(神恵内村) 浜の母さんさん
(八雲町) 八雲の母さん
(室蘭市) 鈴木 英子さん
(登別市) 日川大輝さん
(根室市) 黒部美恵子さん

廃棄ナイロン製刺網を再生ペレットへ
道内リサイクル大手・鈴木商会の
「苫小牧プラ・ファクトリー」が竣工

昨今、プラスチック類による海洋汚染が世界的な問題となるなか、ぎょれんでは令和元年6月、「脱・抑プラスチック」へ向けて環境に配慮した資材の利用や漁具リサイクルの推進など、中長期的な視点に立った運動を展開していくことを宣言。この度、ぎょれんと共同で廃網のリサイクルを進める(株)鈴木商会(本社・札幌市)でこの事業の拠点となる「苫小牧プラ・ファクトリー」が完成し、現地説明会と開所式典が執り行われました。



鈴木商会の「苫小牧プラ・ファクトリー」は、ぎょれんと共同で実証化事業に取り組み、各漁協、生産者の協力や理解を得ながら、この6月より本格稼働が始まりました。
工場に設置された各種の設備で、ナイロン素材を中心とした使用済みの漁網を「異物除去」「切断」「洗浄」「粉砕」「押し出し」「ペレタイズ」を行い、1日最大4.8トン、年間約1,300トンの再生ペレットの生産を目指します。この再生ペレットは約3ミリほどの固形粒状のもので、再生ナイロン樹脂製造販売業者であるリファインバースが繊維メーカーなどに販売、付加価値のある新たな製品として様々な製品の創造～アップサイクル～につなげていきます。
本道では毎年およそ1,500～2,000トンの漁網が使用済みとなり、現状ではその61%が埋め立て処分されていると言われています。そのため、今回のような最終処分量の削減や環境負荷のさらなる低減の観点から、こうした漁網のリサイクルを進めることは非常に重要な取組です。
鈴木商会ではこれまでの家電リサイクル事業やアルミ精錬事業などに加え、新たな事業としてこの春に「海のリサイクル事業」を展開。同施設では「リサイクルの力で北海道の海と漁業を守りたい」をテーマに掲げ、今後はローブやかごなどの漁業資材についてもぎょれんと共同でリサイクルに取り組む予定です。



鈴木商会 駒谷社長

開所式典あいさつ

漁網は高張る、軽いといった理由から処分の方法に苦慮していると言われています。そうしたなか、リファインバースからこの北海道の地において、漁網のリサイクルを一緒に取り組まないか、という話をいただき、この事業であれば苦勞している皆さんにとって喜んでいただける、そして役に立てると考え、協業させていただき決心をしました。今後は原料屋ではなく、使い終わったものを再生し、それを使用するメーカーが喜んで使ってもらえるような資源循環型の製造業という新しい立ち位置に会社としてもステップアップしていきたいと考えておりますので、本日ご出席の関係者の皆さまには今後ますますのご指導、ご鞭撻をよろしくお願い致します。



テープカットの様子。左から苫小牧市 小名産業経済部長、ぎょれん 菊池副会長、苫小牧漁協 伊藤組合長、リファインバース(株) 越智社長、(一社) ALLIANCE FOR THE BLUE 野村代表、日本軽金属(株) 栗田苫小牧製造所長、(株)鈴木商会 駒谷社長

間違いさがし

間違いは5つです。

※右と左の絵には、5カ所の異なる箇所があります。さあ、見つけてください。(印刷のズレや汚れは関係ありません。)



※答えは13ページにあります。

編集部からのお知らせ

皆様からのお便り、写真、イラストをお待ちしています!

次の①～③を明記の上、ご応募ください。抽選で5名様に図書カードをプレゼントします。

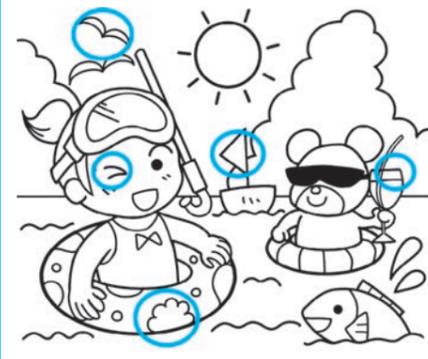
- ①なみまるおたより箱への投稿(お便り、写真、イラスト等)や、広報なみまるくん7月号への感想・ご意見など(※150字程度まで)
- ②11ページのシークワードの答え
- ③住所・氏名・年齢・電話番号

〈宛先〉7月22日までに送ってください。

(郵便) 〒060-0003
札幌市中央区北3条西7丁目1番地
北海道ぎよれん 総務企画部 広報担当
(FAX) 011-242-3543
(電子メール) info@gyoren.or.jp

※「なみまるおたより箱」には①からご紹介します。ご応募いただいた方の個人情報は、図書カード進呈や、お便り、写真、イラスト等の掲載(氏名、年齢、市町村名)にのみ使用いたします。写真やイラストは、返却できませんのでご了承ください。

11ページの間違いさがしの答え



海辺に住んで47年。波打ち際が、すぐ近くなので、日々の波の音、風の音時には雷のいな光を感じて生活しています。凧で大潮の日に、浜を歩くと2センチ位の鰯が、急いで砂にもぐったります。

(室蘭市 鈴木英子さん 72歳)

□シアのウクライナ侵攻、値上げ、値上げ...早くもとの暮らしになると良いですね。

(小樽市 宮古登美子さん)



近年、蛸が不漁です。延縄、函、イサリで獲ります。高値が続いています。

(小樽市 宮古知行さん)

お祭り...中止。なんも楽しいことがないこの町。何か楽しいことがないかな。

又、ホタテの分散もちがづいてきてるなあ。来年のホタテも良いといいなあ。

(八雲町 八雲の母さん 42歳)

ウニ漁が始まりますね。生ウニ井が楽しみです。ウニ漁師の皆様、頑張ってください。

(神恵内村 浜の母さん 74歳)

夏は冷たいビールとお刺身が最高

(豊浦町 阿部暁子さん 52歳)

編集後記

先月号の編集後記で5月中旬にランニングのオンラインイベントへ「チーム北海道ぎよれん」として参加したとお伝えしましたが、先日その「さつきラン&ウオーク企業対抗戦」の最終結果が発表され、何と総合ランキングで1578団体中、全国2位となりました!

今回参加のメンバーはぎよれんの本所をはじめ、道内各支店の猛者たち

「コロナもなかなか収束しませんが、少しずつですが日常の生活に戻りつつありますね。暗いニュースばかりですが、少しでも早く普通の暮らしが出来ますように願っています。」

(根室市 N・Uさん 72歳)

ばかりでしたが、1カ月という長い期間を全員がケガなく無事に走り終えることができたのは、おいしくて栄養たっぷりの道産水産物を普段から食べているからに間違いありません。ぜひこれからも安心しておいしい道産水産物を食べて、北海道マラソンなどの暑い夏のイベントを乗り切りたいと思います。

(古村)

企業対抗戦総合ランキング TOP 5

★ウォーキングの部★	
1位 日酒販 (東京都)	29,576歩/日 (6名)
2位 メイプルケア大宮デイサービス (福井県)	26,741歩/日 (6名)
3位 (有)ハイライフサポート (神奈川県)	25,328歩/日 (13名)
4位 RBO C4部 (東京都)	22,882歩/日 (10名)
5位 NTTデータSMS健康推進室 (東京都)	20,621歩/日 (5名)
★ランニングの部★	
1位 タイガース (兵庫県)	513.35km (10名)
2位 北海道ぎよれん (北海道)	447.73km (10名)
3位 広島県庁ランニングクラブ (広島県)	442.09km (7名)
4位 ミヤザキスポーツ (北海道)	424.58km (7名)
5位 FATEC (栃木県)	409.94km (7名)

もしもの時 日々の訓練が 命を救う

公益社団法人 北海道海難防止・水難救済センター

大漁祈願!

news 浜のほつとニュース

小樽

4月下旬から始まった小女子漁は6月上旬を目処に終漁となりました。本年度も引き合いは強い状況でしたが、水揚げは低調に推移しました。6月に入ってからほうに漁・なまこ漁が順次解禁となりました。うにの実入りは良好で、昨年に比べ高値で推移していることから、浜は活気づいています。前浜が豊漁となることを祈念します。

室蘭

春定置網漁は終盤を迎えており、最近では、室蘭魚市場にばふんうにやむらさきうに、まぐる、ぶりなどの姿も見られるようになってきています。一方、6月20日からは、噴火湾地区で毛がに籠漁が解禁となりました。7月以降には太平洋地区の毛がに籠漁、そしてほつき漁も解禁となりますので、今後の豊漁を願うとともに、生産者の皆様の安全操業を心より祈願しています。

根室

6月1日より開始となったいわし棒受網漁は、3日が初水揚げとなりました。開始は遅れたものの、昨年と比べサイズが良く、高値となり幸先の良いスタートとなりました。一方、鮭鱒春定置網漁については、標津・羅臼地区の時鮭水揚げが昨年同時期に比べ好調であり、いわし同様、今後の水揚げに期待が高まっています。そして、交渉の行方が危惧されていた貝殻島昆布の日口民間交渉が、6月3日に妥結し、関係者は安堵しています。引き続きの安全操業と豊漁を心より祈願しています。

留萌

うに漁・なまこ漁が最盛期を迎えています。一方、各地区でほたての分散作業が始まり、浜が活気づく季節となつてまいりました。これから短い夏本番を迎えますが、熱中症の予防など体調管理に気を付け、皆様が安全操業で、大漁となることを心より祈念しています。

函館

6月1日よりするめいか漁が解禁となり、函館魚市場での初セリにはマスコミ各社が取材に集まり、市場は活気に満ちていました。価格も昨年を上回り、コロナ禍からの回復の兆しと関係者はとらえています。一方、噴火湾地区では、毛がに籠漁が6月20日より解禁となりました。漁期は7月12日までと短く、炊きあがったばかりの毛がにはこの時期にしか味わえない逸品です。多くの食卓へ届くよう、今期の豊漁を切に願っています。

釧路

春定置網漁、鮭鱒流網漁で青鮭の水揚げが大きく伸びています。例年に比べ型も大きく、浜は賑わっています。一方、いわしは棒受網漁から始まり、旋網漁も本格化してきます。今年も釧路港を中心とし、順調に水揚げされることを祈っています。昆布については棹前昆布漁が開始されましたが、天候に恵まれず、思うように出漁できない日々が続いています。天候の回復と、今後の安全操業を祈っています。

稚内

ほたて漁の操業が全地区で本格化し、浜は一層の賑わいを見せています。一方、利礼地区でうに漁(のな)が解禁となったことに加え、7月には昆布漁が解禁となることから、今後さらに活気づいてくる季節となりました。本格的な夏の訪れを待ち遠しく思うとともに、夏の最盛期に向け安全操業で豊漁となることを願っています。

梶山

6月2日よりするめいか漁がスタートしました。魚体こそまだ小さいものの、徐々に数量が増えはじめ、発泡物で数千ケースの上場となるなど、浜は賑わいを見せています。今後、魚体が大きくなるにつれ、ますます水揚げが増え、浜が活気づくことを願っています。

日高

春定置網漁は7月中旬までの漁期となっており、現在終盤に差し掛かっています。水揚げ数量ですが、時鮭は昨年の2倍、本鮭が1.2倍と好調な水揚げとなっており、鮭鱒類全体で昨年の約2倍と活気ある春定置網漁となっています。一方、6月20日から徐々に昆布漁が解禁となり、浜の期待も大きく膨らんでいます。一日でも多く晴れの日が続き、皆様が安全に操業できることを願っています。

北見

7月に入り、オホーツク地区も短い夏を迎えようとしています。浜ではほたて漁の本操業が始まっています。たこ漁も本格化するなど夏漁が賑わいを見せており、7月中旬頃からはオホーツクサーモンの水揚げが始まります。8月にはほつき漁が解禁し、順次水揚げを開始する予定です。今後も益々の豊漁と安全操業を心より祈願しています。



レシピアクセス数

第48位

ほっきのカレーライス

今回は「ほっきのカレーライス」をご紹介します。

固形のカレールーを使い、じっくり煮込みます。

火を止める前にほっきを入れ、赤くなったら出来上がりです。



2022年はぎよれんのホームページ「おすすめレシピ365」のアクセス数上位50位からレシピをご紹介します。魚種や料理法の重複など考慮して掲載を決めています。

*2020年1～12月調べ

材料 4人分

ほっき貝	4個
玉ねぎ(大)	1/2個
じゃがいも(中)	2個
にんじん	1/3本
固形カレールー	80～100g
油	少々
ごはん	800g
パセリ(みじん切り)	適量



作り方

- ① じゃがいもは2～3センチ角、にんじんは1センチの角切りにし、玉ねぎは5ミリの縦切りにする。
- ② ほっき貝の足肉を2枚に開き、中の黒いウロを取り除きます。水洗いして縦半分になり、切り目を入れます。ヒモは半分に切り、貝柱も水洗いする。(ウロ以外は全部食べられます。ワタの部分は特に念入りに水洗い。)
- ③ 鍋に油をひき、野菜をいため、600ccの水を入れて煮る。
- ④ 野菜がやわらかくなったら、固形カレールーを入れ、とろみがつくまで煮る。
- ⑤ ほっきを入れ、身が赤くなったらすぐ火を止める。
- ⑥ ごはんにパセリのみじん切りを混ぜて器に盛り、⑤をかけたら出来上がり。